



快適な水辺

快適な水辺であるかどうかを、みなさんの感覚によって判断する調査です。判断した理由や、水環境がよくなるためには、どのようなことが必要かなど、考えながら調べましょう。

- けしき（感じる）
- ごみ（見る）
- 水とのふれあい（触る）
- 川のかおり（かぐ）
- 川の音（聞く）

質問	段階	3	2	1	決めた理由（わけ）
●川やまわりのけしきは美しいですか？		美しい	ふつう	よくない	
●ごみが目につきますか？		ごみがない	ごみがあるが 多くはない	ごみが とても多い	
●水にふれてみたいですか？		ふれてみたい	ふれてもよい	水に ふれたくない	
●どんなにおいを感じますか？		心地よいかおり	気になる においはない	いやなおい がする	
●どんな音が聞こえますか？		川の心地よい 音がする	気になる音は しない	いやな音や そう音がする	



18

〈本ページのねらい〉

個人の感覚によって、川の快適性を判断する。

その際、判断した根拠を考
えることで、より水環境を快
適な場にするためにはどの
ようなことが必要かを考察
する。

〈ポイント〉

調査実施者の感覚に基づ
いた項目で構成されている
ため、調査後にグループ内で
十分に議論し、判断に大きな
偏りが出ないように留意す
る。

その際、調査の客観性を高
めるために、各項目において
具体的な要素例をいくつか
挙げて「決めた訳（わけ）」
の欄に記してもらおう。その
「決めた訳（わけ）」につい
て議論して相互の理解を深
めるようにする。

最終的には、あくまで個人
の主観的な判断で良いこと
とする。

〈発問〉

- 集団において、個人の感覚に基づいた判断を評価する際に、気をつけるべきことは何があるでしょうか？

⇒ばらつきがあることを理解した上で、共有できる判断へと導く。

具体的な判断材料を共有し、個人の主観による判断基準のすりあわせを行う。

⇒個人の感性や生活履歴に基づく判断を大切にす。

上記に示すようにばらつきを少なくすることも大切であるが、最終的には、個人の生活履歴に基づき評価を行うことが大切である。

〈本ページのねらい〉

水辺にたたずんで視界に入る多種多様な河川景観の構成要素が、場に馴染み、美しいと感じるかどうかを判断する。

〈ポイント〉

1. 視点探し

調査区間の周辺にどのような景観構成要素があるかを事前に確認し、周辺を広く見渡せる視点場（調査地点）を決定する。

2. 川を眺める場所

次の場所から川を眺め、川らしさを感じられるか、景観として違和感がないか（周辺と調和しているか）を判断する。

- 川の流れる見える所
- 川の対岸の見える所
- 高い所（橋の上など）

※ 地形的な場（上流地域あるいは下流地域）と沿川の場（都市あるいは郊外の特性）の二つの視点から、周囲環境との調和を判断する。

4. 快適な水辺

● けしき(感じる)●

川やまわりのけしきは美しいですか？



みずべ 水辺にたたずんで視界に入る川やまわりのけしきが、美しいと感じるかどうかを調べましょう。このとき、次の場所から川をながめましょう。

○川の流れる方向に眺める ○川の対岸方向を眺める ○橋の上からなど、高いところから眺める

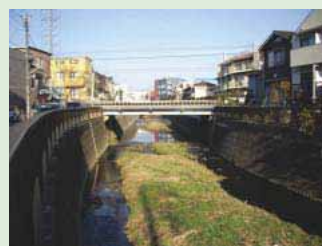
美しい(3)



ふつう(2)



よくない(1)



19

〈発問〉

- 「美しい景観」には「自然な川らしさ」を感じられる景観以外に、どのようなものがあるでしょうか。

⇒都市域における建築、橋、船舶などと調和がとれた景観

(例) レンガ作りの水門や、風情のある橋、水運で栄えた都市の渡し舟など

⇒都会的な景観

(例) 近代的なウォーターフロント(※)、整備された川とビル群のコントラスト

※ 都市の中で、川などの水面に近接した地域。港湾、工場など産業用に利用される

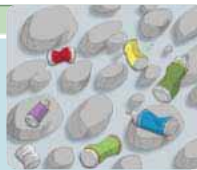
ことが多いが、近年、親水性を活かした住居・商業地域として開発される例が増えている。



4. 快適な水辺

● ごみ(見る)●

ごみが目につきますか？



川面に浮かんでいるごみや水際に捨てられたごみの量を調べて、視覚的に水辺が快適かどうかを調べましょう。

ごみがない (3)



ごみがあるが多くはない (2)



ごみがとても多い (1)



20

〈本ページのねらい〉

散乱したごみの量から、視覚的な快適さ（不快さ）を判断する。

川面に浮遊するごみや川床や河川敷に投棄されたごみの存在量を定性的に判断する。

〈ポイント〉

調査区間を踏査して、ごみの種類をよく観察し、どのようなごみが存在しているのかを確認して、量だけではなく、ごみの質についても確認する。

特にごみがどこから来たか（投棄場所など）について、ごみの量や質から考えてみる。

次いで、そのようなごみ投棄を防ぐにはどうしたら良いか対策についても考えてみる。

今自分たちにできることは何だろうか？



〈発問〉

● ごみがあることで河川環境や河川における生態系にどのような影響を及ぼすでしょうか？

(例) ⇒ 景観が悪くなる、悪臭を放つ。

⇒ ごみに含まれる有害物質が、雨水などによって溶け出し、
土壌や河川の水が汚染される可能性がある。

⇒ 生き物が誤って飲み込むと窒息や腸が詰まって死ぬこともある。

⇒ 増水時に流下して河川管理施設（堰・ゲート等）や流水の機能に影響することもある。

ごみがあると、本来川に生息する生き物がすみ場をなくしてしまうね。川の浄化作用を持っている生き物がいなくなってしまうとどうなるのだろうか？



〈本ページのねらい〉

きれいな水辺では、夏の暑い日には、思わず水中に足を踏み入れたり、水面を手で触ったりしてみたいと感じる。

ここでは、実際に肌で触れることで得られる感覚（“心地よさ”，“気持ち悪さ”）や，“触れてみたい”あるいは“触れたくない”といった感覚によって判断する。

〈判断基準〉

実際に肌で触れてみたいと感じるときには、他の諸感覚（見る・聞く・におい等）での感じ方も判断材料となっている。

例えば、水に触れてみたいと感じる水面（みなも）は、泡がなく透明で水がきれい（見る）と言うだけでなく、変なにおいもせず（におい）、さらさらと心地よい音が（聞く）している。

4. 快適な水辺

● 水とのふれあい(触る)●

水にふれてみたいですか？



夏の暑い日には、思わず水の中に足を入れたり、すいめん水面をさわ手で触ってみたくなくなると感じます。
はだ肌でふれた時の心地よさやふれてみたいかどうかによって、かいてき快適かどうかを判断しましょう。

ふれてみたい (3)



ふれてもよい (2)



水にふれたくない (1)



21

〈発問〉

● どのような水辺だと入りたいと思うのでしょうか？

- (例) ⇒水が澄んでいてきれい
- ⇒魚がたくさん泳いでいる
- ⇒川床がぬめっていない
- ⇒臭くない



水遊びをする子供

〈本ページのねらい〉

水の直接のにおいだけでなく、川原の植生の薫りや、周辺の工場からのにおいなど、自然的・人工的要素を含めて判断する。川岸に立って聞こえてくる、せせらぎの音の他、自然的・人工的要素を含めた様々な音からも、水辺を判断する。

4. 快適な水辺

● 川のかおり(かぐ)●

どんなにおいを感じますか？



川の水だけではなく、川原の植物や川の周辺^{しゅうへん}の森や田圃^{たんぼ}のかおりを含めた川のかおりを調査^{ちようさ}します。水そのものにおいではなく、川岸^{かわぎし}（堤防^{ていぼう}など）にたたずんだ時に感じるかおりです。

周辺^{しぜん}の緑（自然^{しぜん}）、風^{かぜ}などを含め、水辺^{みずべ}で呼吸^{こきゅう}をして快適^{かいてき}かどうかを判断^{はんだん}しましょう。

かおりやおいについて、自然的要素^{しぜんてきようそ}、人工的要素^{じんこうてきようそ}を含めて、快適^{かいてき}に感じるかどうか判断^{はんだん}しましょう。

段階	内容
3	心地よいかおりを感じる
2	気になるにおいはない
1	いやなおいがする

4. 快適な水辺

● 川の水(聞く)●

どんな音が聞こえますか？



川岸^{かわぎし}に立つと、瀬^せを流れる水の音^ね、堰^{せき}からの落水^{らくすい}の音^ね、水鳥^{みずとり}の鳴き声^{ななきこゑ}、水面^{すいめん}を渡る風の音^{かぜのね}、水辺^{みずべ}で遊ぶ子ども達^{たから}の声^{こゑ}などいろいろな音が聞こえてきます。これらの心地よい川の音や、川の周辺^{しゅうへん}から聞こえる音^ねについて調査^{ちようさ}します。

水辺^{みずべ}で聞こえる音^ねについて、自然的要素^{しぜんてきようそ}、人工的要素^{じんこうてきようそ}を含めて、快適^{かいてき}に感じるかどうか判断^{はんだん}しましょう。

段階	内容
3	川の心地よい音がする
2	気になる音はしない
1	いやな音やそう音がする

〈ポイント〉

調査区間を踏査^{ふみさ}して、薫^{かぐ}りやおいの発生源^{はつげん}の状況^{じょうきょう}を調査^{ちようさ}し判断^{はんだん}する。周辺^{しゅうへん}の緑（自然^{しぜん}）、風^{かぜ}などを含め、水辺^{みずべ}で呼吸^{こきゅう}して「かおり」と「音^ね」を判断^{はんだん}するもので、前者^{ぜんしや}については水の臭^{くさ}いを嗅^{かぐ}いで判断^{はんだん}する「水^{みづ}におい」とは異なる。水辺^{みずべ}で聞こえる音^ねについて、自然的要素^{しぜんてきようそ}、人工的要素^{じんこうてきようそ}を含めて判断^{はんだん}する。

〈発問〉

心地よい薫^{かぐ}り/音^ね、気になる薫^{かぐ}り/音^ね、不快な薫^{かぐ}り/音^ねにはどんなものがあるか考えてみよう。

「日本のかおり風景百選」「残したい日本の音風景百選」

環境省は、日本各地の自然や生活、文化に根ざした香りのある地域を選定した“かおり風景”と全国各地で人々が地域のシンボルとして大切に、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境（“音風景”）を選定している。景観を物質的な指標ではなく、かおりや音といった感覚的な指標で表現する取り組みの例である。



四万十川の沈下橋をわたる風



那智の滝

〈本ページのねらい〉

対象とする水域において、「地域の住民やその場を訪れる人たちが、どの程度、川（水）に親しみ、川を大切にしているか、日常生活において川（水）がどのように位置づけられているのか」といった水環境と地域とのつながりの深さについて調査する。

〈ポイント〉

他の調査軸と比較して、短期間で結果が変わる性格のものではなく、また現地調査によって確認できない要素が多いため、事前の資料収集と調査が必要である。

また、各自の質問に対する知識の深さによって、判断に差が生じるため、事前のレクチャーや資料の配布などによって、調査参加者が「河川と地域とのつながり」に関する知識を得られるように工夫することが望ましい。

事前調査をしよう！

① 地元自治体に聞く

環境課、NPO 推進室など

② 調べて学習する

博物館、各種協会、市民活動誌、郷土史、地元出版物・広報誌、インターネットなどで、情報収集することもできる。※p29 参照



地域とのつながり

「地域の人々やその場所を訪れる人たちが、どの程度、その川に親しみ、その川を大切にしているか、ふだんの生活の中でその川（水）がどのように関わっているか」といった川と地域とのつながりの深さを調査します。

- 歴史と文化
- 水辺への近づきやすさ
- 日常的な利用
- 産業などの活動
- 環境活動

質問	段階	3	2	1	決めた理由（わけ）
● 川にまつわる昔の話を聞いたことがありますか？		たくさん聞いたことがある	聞いたことがある	聞いたことがない	
● 水辺には近づきやすいですか？		近づいて、水にふれられる	近づけるが、水にふれられない	水辺を見ることのできない	
● 多くの人が利用していますか？		多くの人が利用している	利用はされているが少ない	利用されていない	
● 産業などの活動		よく利用されている（漁業や水道など）	少し利用されている	利用されていない	
● 環境活動		多くの人がさかんに環境に係わる活動をしている	時々あるいは一時的に活動をしている	全く活動がない	



23

〈発問〉

- なぜ、地域（住民）と川との係わり・つながりが重要なのでしょうか。

（例）⇒川を共通の話題として地域住民がコミュニケーション（世代間交流等）できる。

⇒川を経済的・産業的（漁業・観光等）に利用することで、地域の活性化にもつながる。

⇒何よりも、日々の生活の中で川を感じることで、生活の潤い・豊かさを得られる。

⇒以上のように、川への関心が高まることで、水環境の健全性を維持・回復することへつながる。